

田島中学校区

小中一貫校開校に向けた説明会



令和2年2月7日（金） @生野南小学校
令和2年2月9日（日） @田島小学校

学校配置の適正化が求められる背景

1. 児童の学習環境から

小規模校(11学級以下の小学校)の利点と課題

利点

- 学校としてまとまりやすい。
 - ▶ 一人一人に目が行き届きやすい。
- 一人一人の学習状況を把握し、個別指導を含めたきめ細やかな指導が行いやすい。

課題

- 教育活動の幅が狭くなる
 - ▶ 音楽の合唱や、体育の集団競技などは困難な場合もある。
- 互いに切磋琢磨する機会が少なくなる
 - ▶ 運動会でのリレー、ドッジボール等の球技大会などにおいて、クラス対抗ができない。授業の中で多様な発言が引き出しにくくなる。
- クラス替えができないことから、人間関係が固定化する傾向にある。
- 教職員数も少なくなり、学年運営に関して同学年担当教員による学年共通の指導方法の高め合いができない。
など。

新たな学習指導要領の全面実施から

◆子ども同士の協同、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

◆何ができるようになるかを明確にした社会に開かれた教育課程の編制

子どもたちが多様な人間関係を構築する環境を意図的に創出
教科横断的なカリキュラムの検討や一部教科担任制の導入が可能な教職員組織の構築

学校配置の適正化が求められる背景

2 教職員組織面から



小学校教諭(約5,500人)



児童数の減少による小学校の小規模化

大阪市立小学校の児童数

昭和57年度

約23万人

令和元年度

約11万人

約半分に減少

大阪市立小学校の学校数

昭和57年度

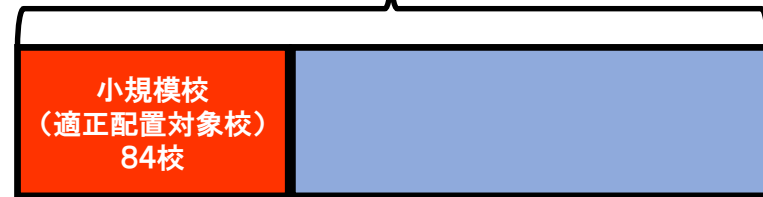
300校

令和元年度

287校

ほぼ変わらない

小学校(287校)



小学校の約3割が小規模校化
1割以上の学校が全学年単学級

全国的な教員不足の状況のもと、初任者を単学級に配置せざる負えない状況に・・・

各学年2学級以上の規模として、経験年数のバランスを考慮した教職員配置
初任者は経験ある教員と学年運営を担うことで、資質の向上を図る

生野区の現状（児童数の減少による小学校の小規模化）

1 生野区全体の状況

生野区内の大阪市立小学校の児童数



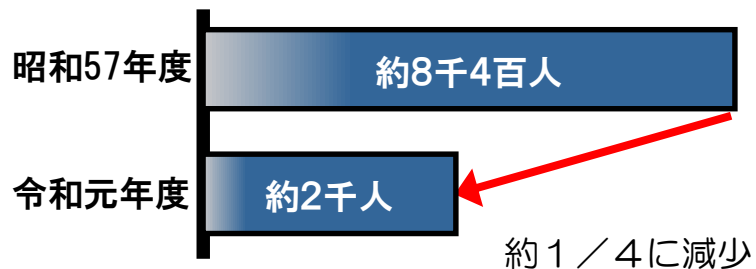
生野区内の大阪市立小学校の学校数



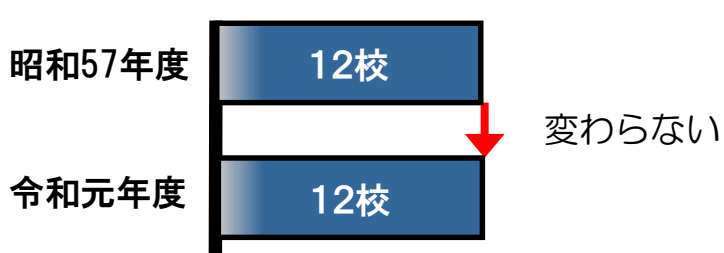
小学校の小規模化が大阪市の平均よりさらに進行しています。

2 生野区西部地域の状況

生野区西部地域の大阪市立小学校の児童数



生野区西部地域の大阪市立小学校の学校数



大阪市、生野区全体よりも児童数が減少しており、小学校の小規模化がさらに進行しています。